

第3章 本市のスポーツの現状

1 アンケート調査の実施

市民を対象に平成27年（2015年）4月24日から5月11日までの間「スポーツに関するアンケート調査」（以下「アンケート」とする。）を実施しました。

このアンケートでは、自分自身の健康や体力をどのように認識され、スポーツ（運動）にどの程度の頻度で関わりを持たれ、どのように（サークル等のソフト面・施設整備等のハード面）したらスポーツ（運動）に関われるのか等、市民の現在の状況をお尋ねしました。

対象は、小中学生を除く10代から70代までを各200名、80代以上を100名、小学5年生を250名、中学2年生を250名の計2,000名を無作為に抽出しました。

回収率は、小中学生を除く10代以上が1,500名のうち510名で34.0%、小学5年生が250名のうち106名で42.4%、中学2年生が250名のうち96名で38.4%、全体では2,000名のうち712名で35.6%となりました。

※数値の表記について

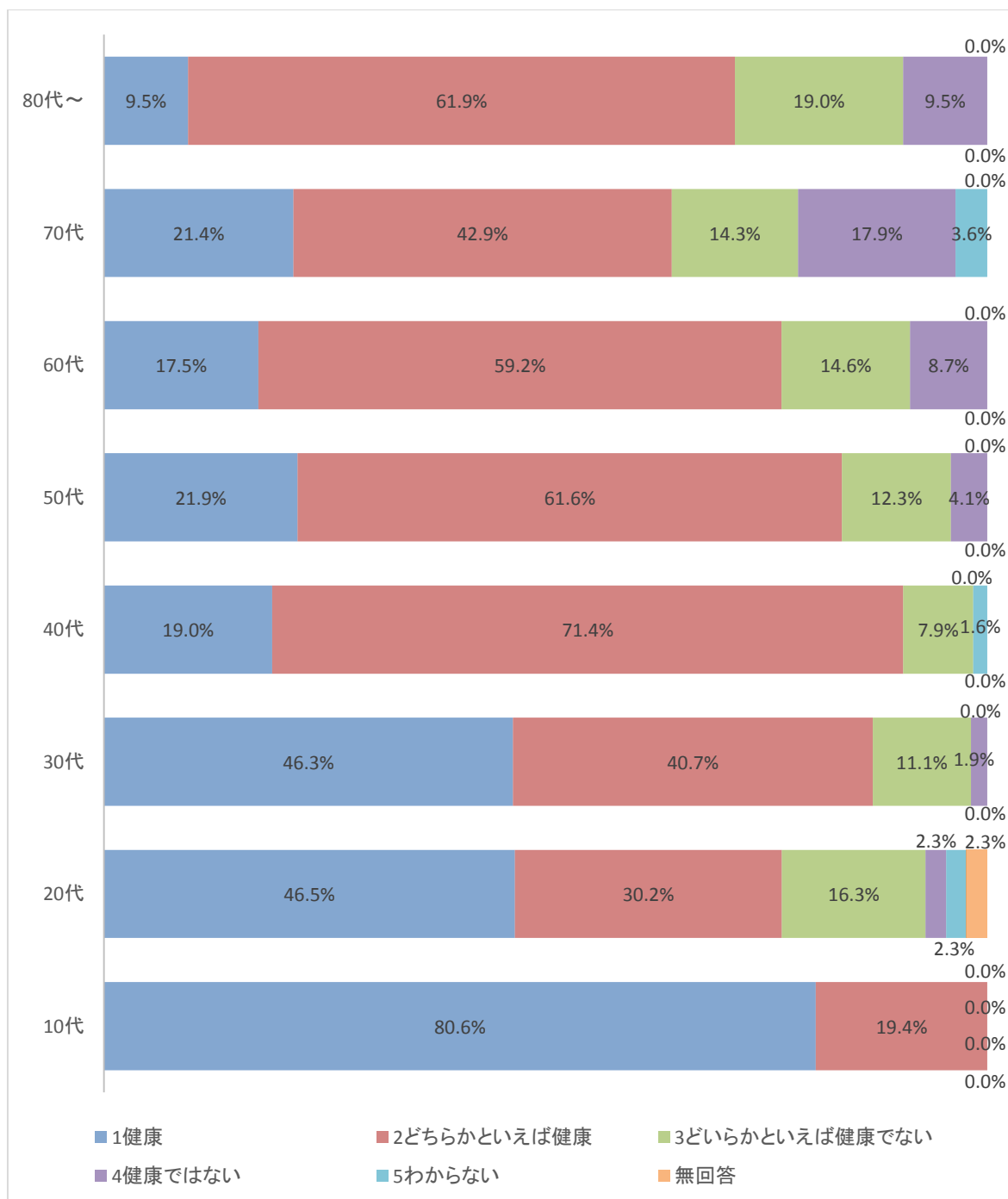
回答は、回答者総数を100パーセントとして算出し、小数点第2位を四捨五入してあります。このため、回答率の合計が100パーセントにならない場合があります。

複数回答の質問では、回答率の合計が100パーセントを超える場合があります。

2 市民のスポーツに対する意識（アンケート結果）

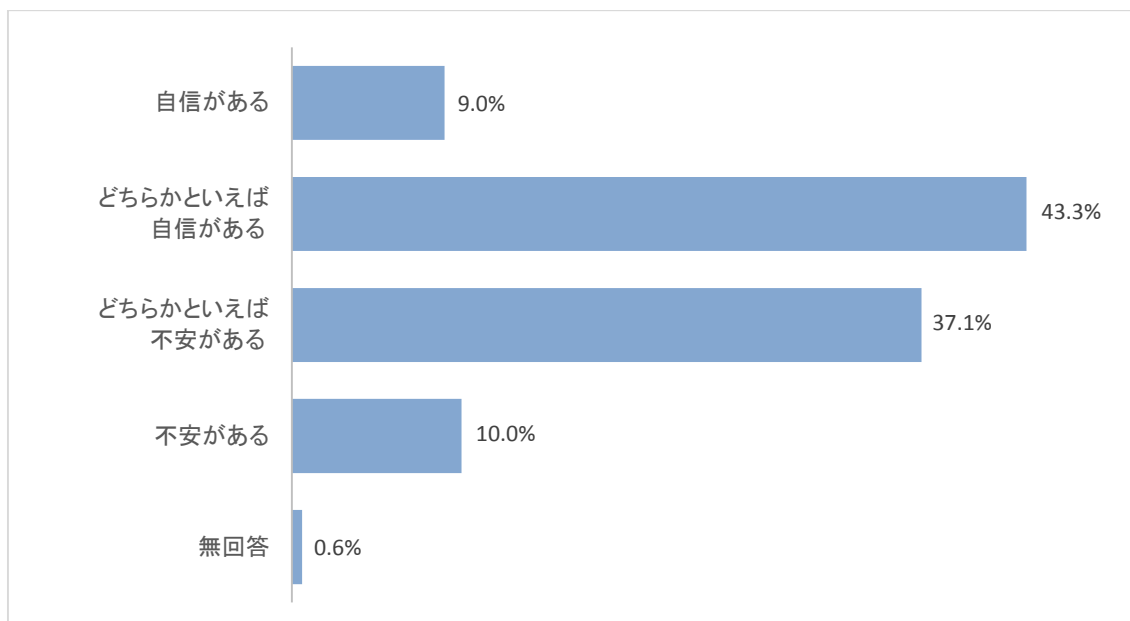
（1）健康状態（小中学生を除く10代以上）

市民の健康に対する意識は、「健康である」が約32%、「どちらかといえば健康である」が約49%となっており、全体の81%が健康であると回答しています。



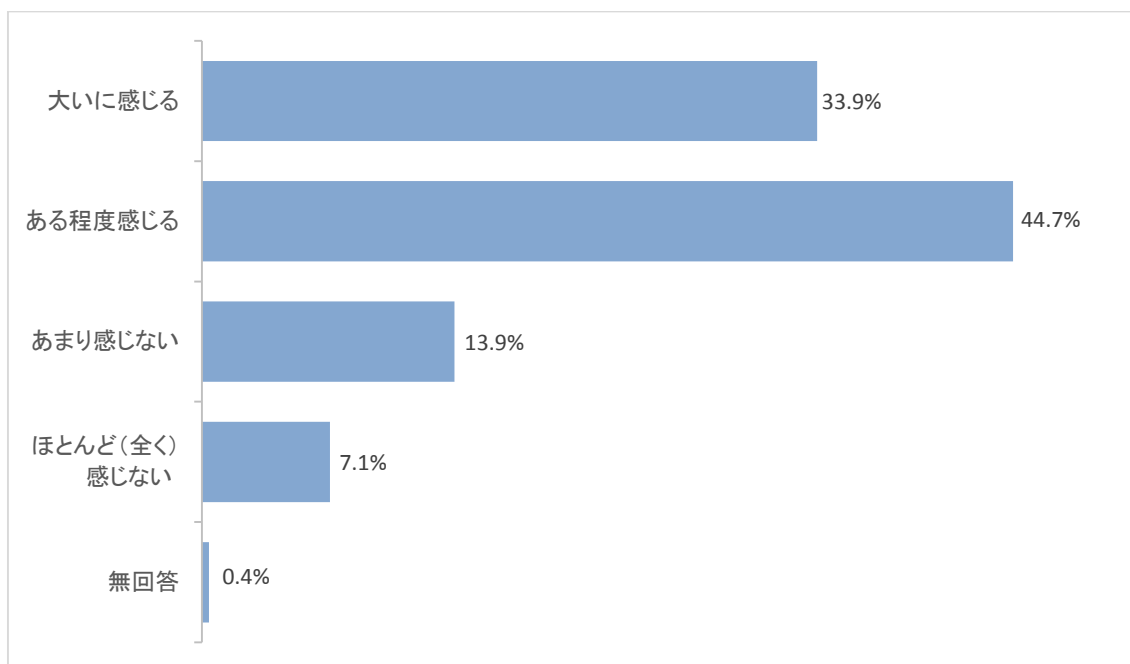
(2) 体力（小中学生を除く10代以上）

自分の体力について「不安がある」が10%、「どちらかといえば不安がある」が約37%となっており、約47%が不安を感じています。



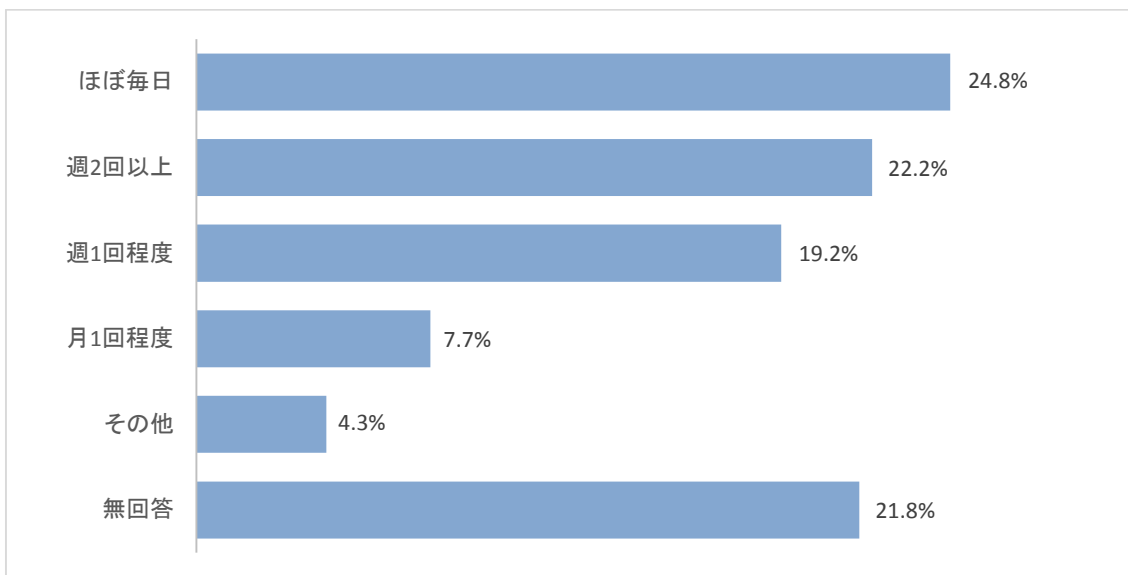
(3) 運動不足（小中学生を除く10代以上）

運動不足を「大いに感じる」が約34%、「ある程度感じる」が約45%となっており、約79%が運動不足を感じています。



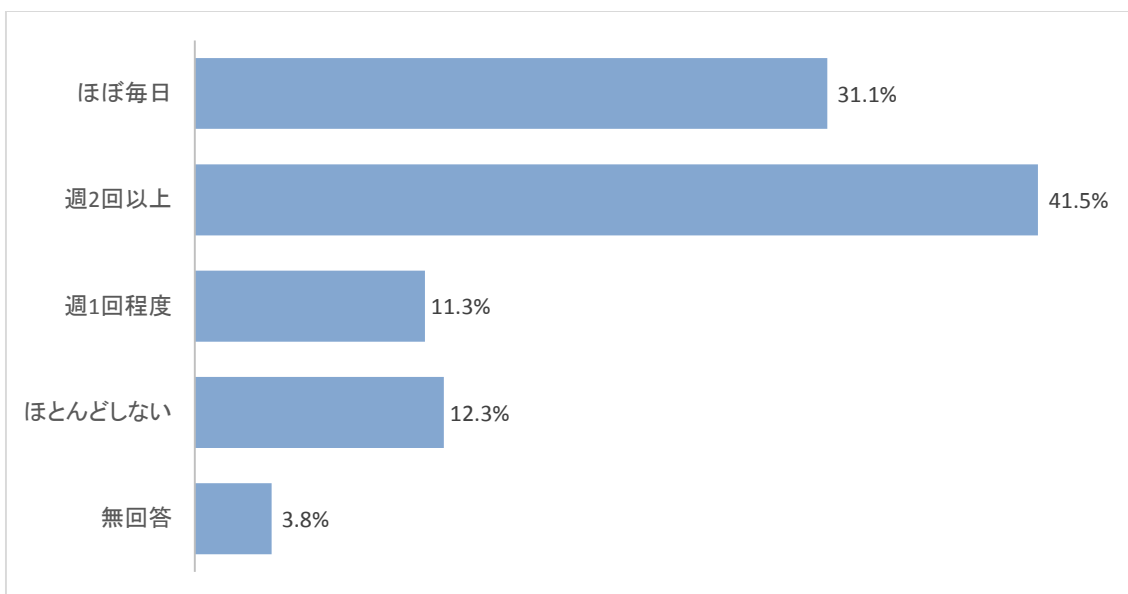
(4) (ア) スポーツの実施（小中学生を除く10代以上）

「現在、何かスポーツをしている」と回答した人のスポーツ実施頻度については、「ほぼ毎日」が約25%、「週に2回以上」が約22%となっており、スポーツをしている人の47%は、週に2回以上スポーツを実施しています。



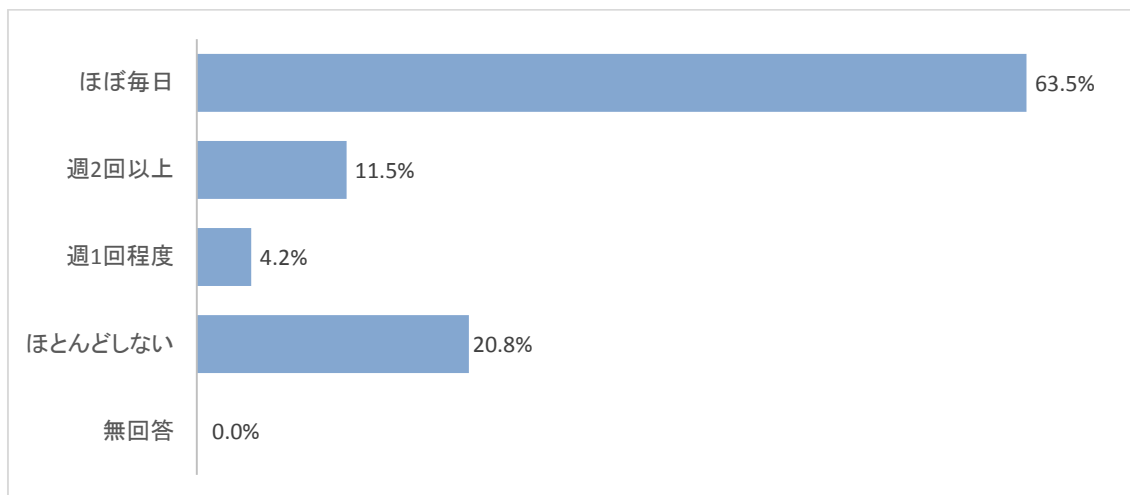
(イ) スポーツの実施（小学5年生）

「学校の自由時間や体育の授業以外でどのくらい運動しますか」の問いに、「ほぼ毎日」が約31%、「週に2回以上」が約42%となっており、小学生の約73%は週に2回以上スポーツを実施しています。



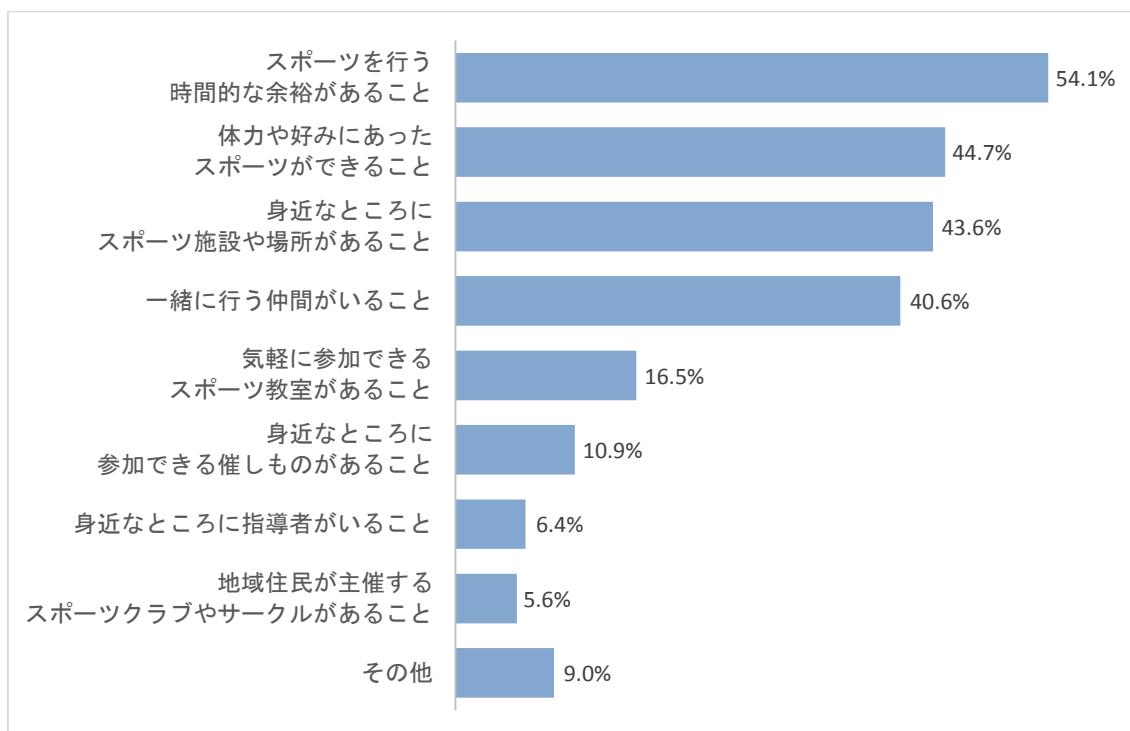
(ウ) スポーツの実施（中学2年生）

「学校の自由時間や体育の授業以外でどのくらい運動しますか」の問いに、「ほぼ毎日」が約64%、「週に2回以上」が約12%となっており、中学生の75%は週に2回以上スポーツを実施しています。



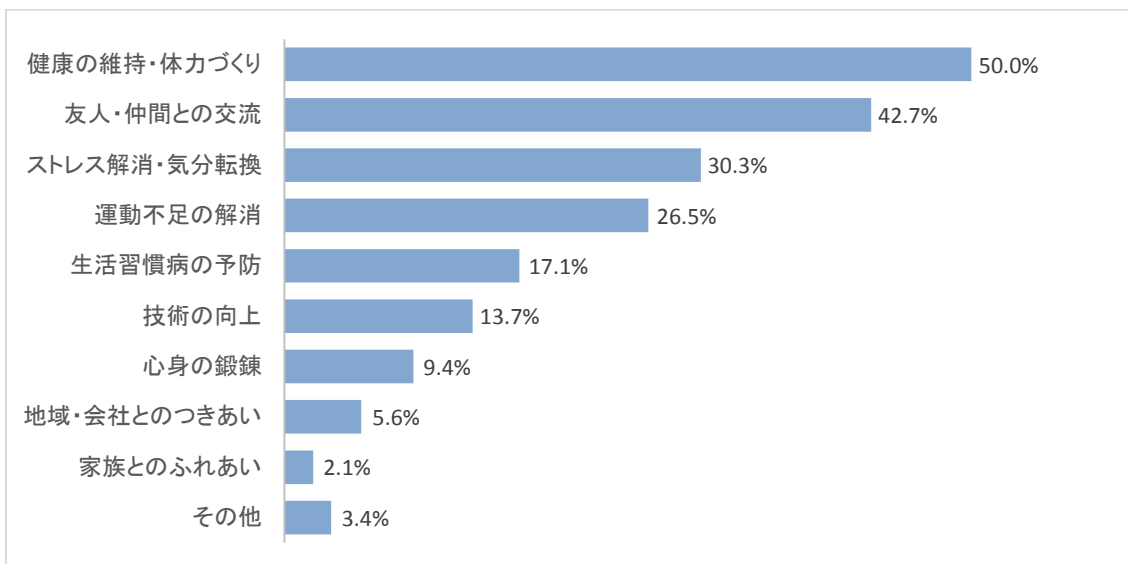
(5) スポーツをする条件（小中学生を除く10代以上） ※複数回答可

「スポーツをしていない」と回答した人のうち、「スポーツをしたり、始めたりすることの条件」について、約54%が「スポーツを行う時間的な余裕があること」と回答しています。



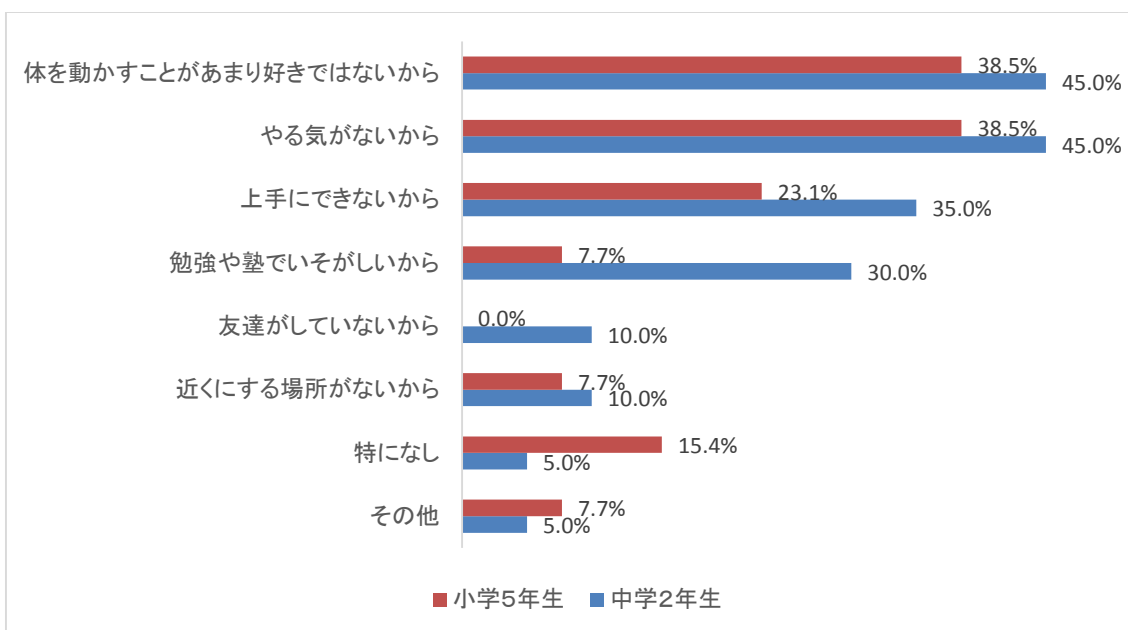
(6) スポーツをしている理由 (小中学生を除く10代以上) ※複数回答可

スポーツをしていると回答した人のスポーツを行った理由は、「健康維持・体づくり」が50%、「友人・仲間との交流」が約43%、「ストレス解消・気分転換」が約30%となっています。



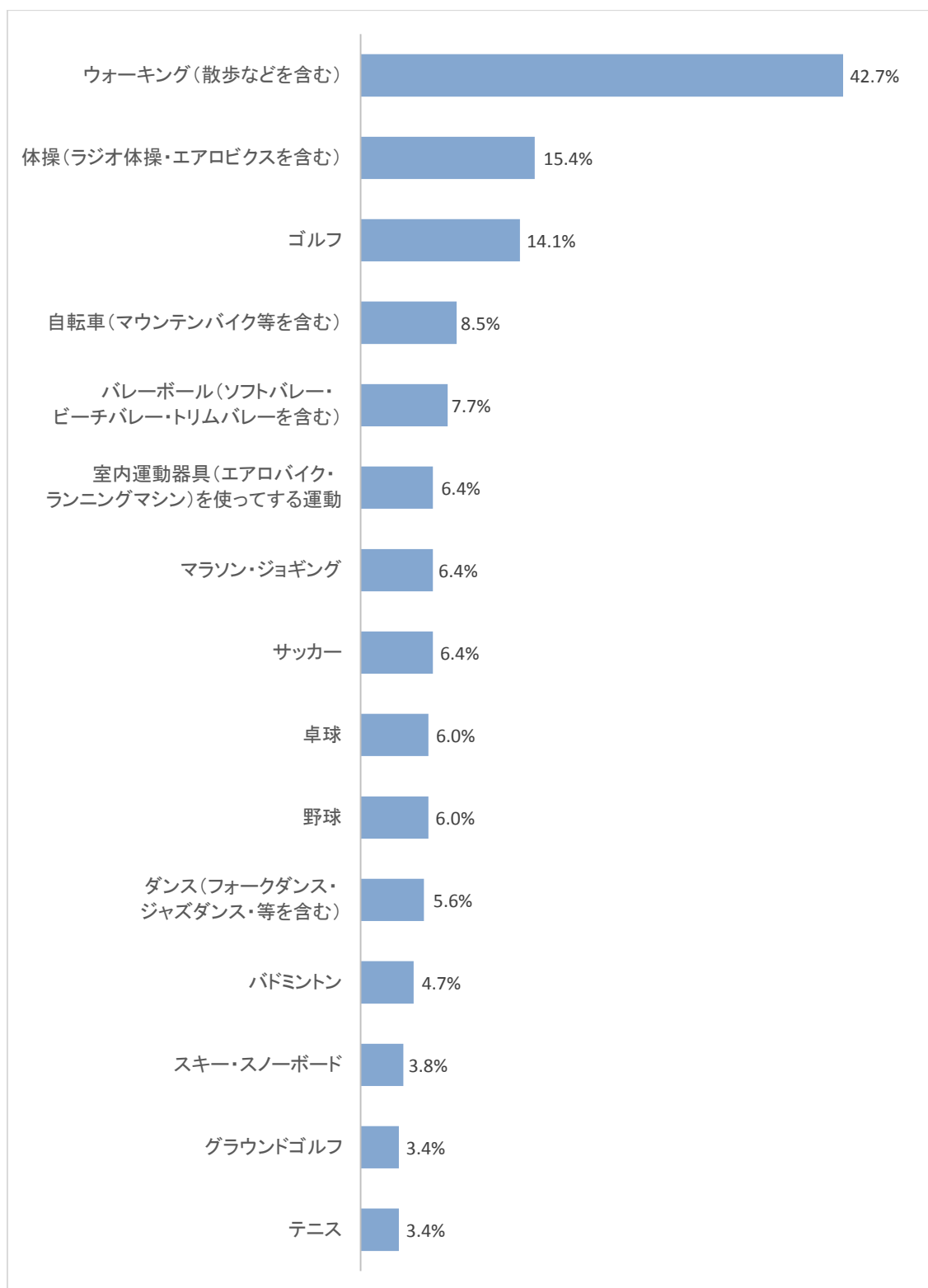
(7) スポーツをしていない理由 (小中学生) ※複数回答可

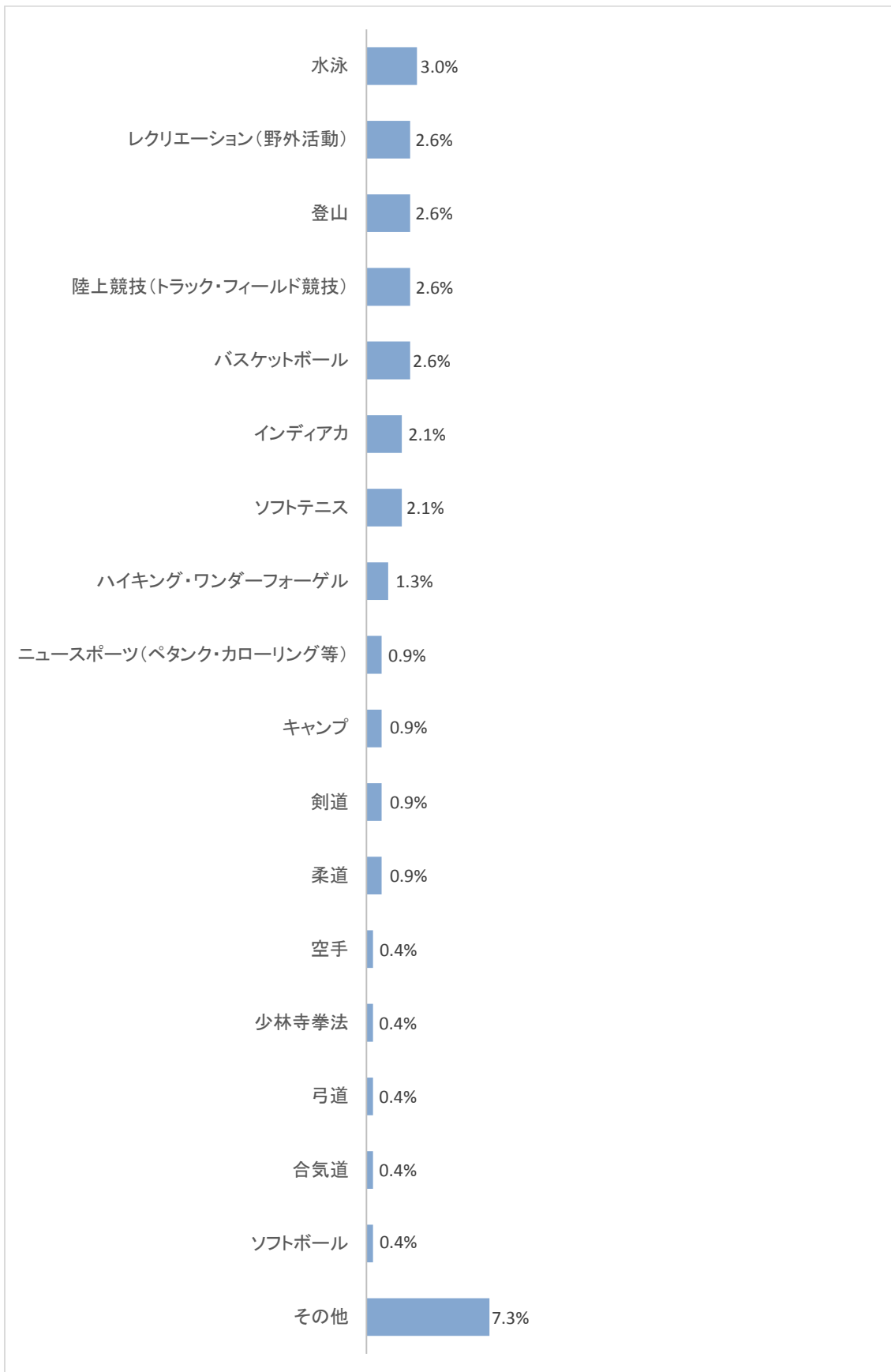
「学校の自由時間や体育の授業以外でほとんど運動していない」と答えた理由として、小中学生ともに「体を動かすことが好きでない」「やる気がない」との回答が上位を占めています。また、中学生になると「勉強や塾でいそがしい」との回答が目立ってきます。



(8) スポーツの種類 (小中学生を除く10代以上) ※複数回答可

「スポーツをしている人」がどのようなスポーツをしているかについては、「ウォーキング」、「体操」の順になっています。



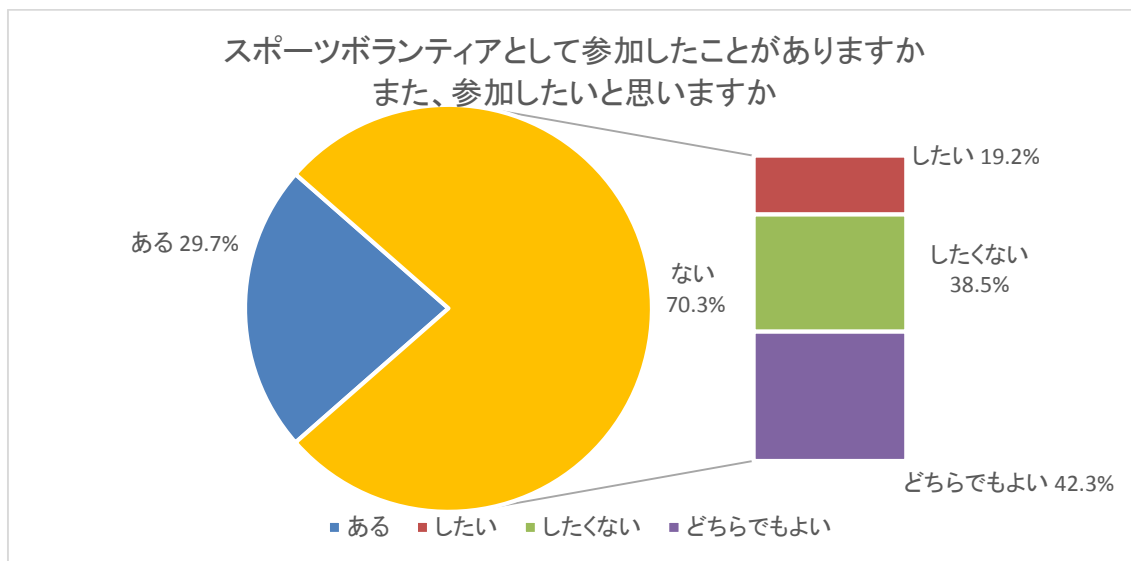


(9) スポーツボランティア(*) (小中学生を除く10代以上)

スポーツボランティア制度を知っている人(約7%)のうち、「スポーツボランティアに登録し、活動に参加したことのある人」の割合は、約30%となっています。

また、活動に参加したことがない人のうち約19%の人が、「今後、スポーツボランティアをしたい」と回答しています。

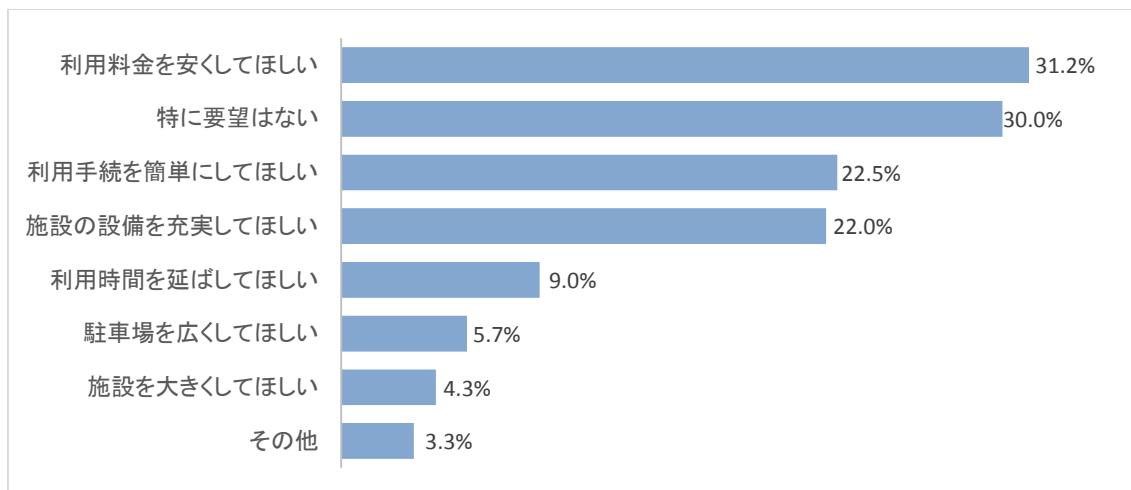
(*) スポーツボランティア：地域における市民マラソン大会や運動会から国民体育大会や国際大会を支えるボランティアで、活動内容としては、会場案内・記録・交通整理・給水等が挙げられます。



(10) 公共スポーツ施設を利用する上での要望 (小中学生を除く10代以上)

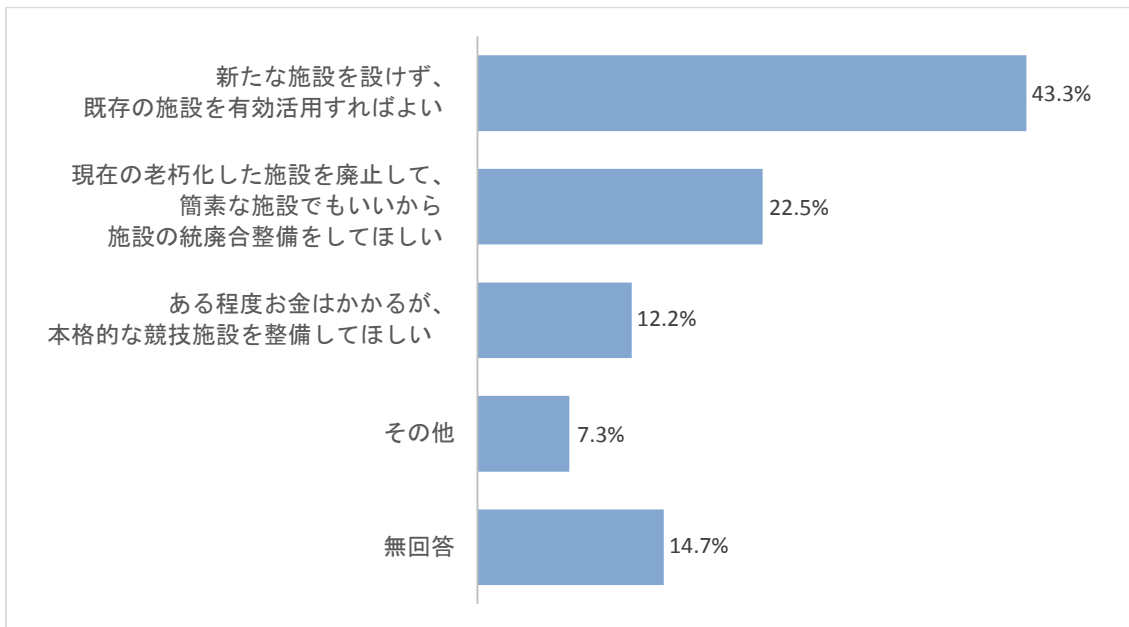
※複数回答可

公共スポーツ施設に対する要望として、「利用料金を安くしてほしい」が約31%、「利用手続を簡単にしてほしい」が約23%となっています。



(11) これからの公共スポーツ施設のあり方（小中学生を除く10代以上）

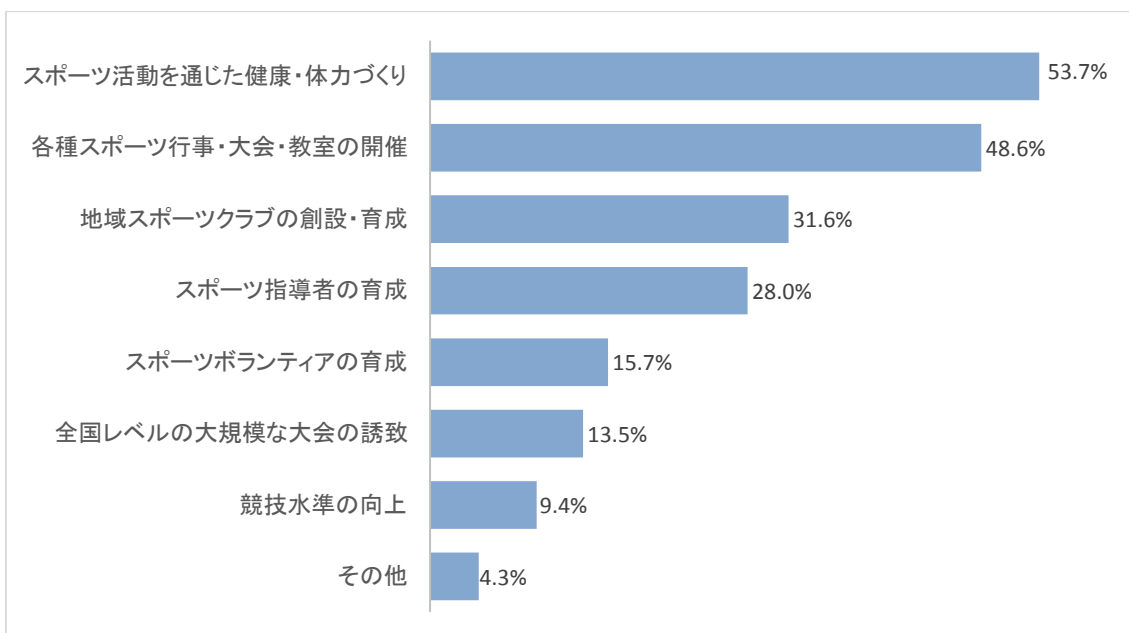
これからの公共スポーツ施設あり方として、約43%が「既存施設の有効活用」を、約23%が「施設の統廃合」となっています。



(12) 今後のスポーツ推進のための重要事項（小中学生を除く10代以上）

※複数回答可

今後のスポーツ推進のための重要事項として、「健康・体づくり」が約54%、「スポーツ行事・大会・教室の開催」が約49%となっています。



3 アンケート調査の分析

(ア) 小中学生を除く10代以上

健康状態について「健康」及び「どちらかといえば健康」との回答が8割を超えることに対し、体力については不安を感じている人が約半数に上ります。次に、運動不足については、8割弱の人が運動不足を感じています。また、そのうちの6割以上が現在スポーツをしていないことが明らかになりました。別の設問で「現在スポーツをしていない」と答えた人のうち、その理由を「時間的な余裕がない」と答えた人が一番多く、自由意見では、「気軽に」、「いつでも」、「だれでも」、「身近に」という語句が多く見受けられ、これから少しでもスポーツにふれあう人口の増加を図るには、決して軽視できないキーワードであると言えます。

(イ) 小中学生

小学生は「家に帰ってから外で遊ぶ」の割合が9割弱であるのに対し、中学生は5割弱となっています。これは、「クラブ活動」・「習い事や学習塾に通う」頻度が中学生になると高くなるのが原因と思われます。

また、小中学生ともにスポーツをしていない理由については、「体を動かすことが好きではない」、「やる気がない」が主な理由として挙げられ、この世代からスポーツを「する」・「しない」の二極化がうかがえます。さらに言えば、スポーツをほとんどしていない小学生にのみ質問した事項で「スポーツを見ることは好きですか」の問いに対し、約4割の児童が「きらい」と回答しています。

第4章 計画の基本理念

1 基本理念（目指す姿）

「スポーツを通じた豊かな市民生活」の実現

本市では、スポーツのもつ多面的な役割を様々な分野で活用することにより、市民の誰もが心身ともに健やかで暮らすことができるよう、「スポーツを通じた豊かな市民生活」の実現を目指します。

2 基本方針

本計画では、基本理念として示した将来の目指すべき姿の具現化に向けて、スポーツのもつ多面性を重視し、これを活用するという観点から、基本方針を定め、各施策を進めてまいります。

（1）生涯スポーツの推進

市民一人ひとりが年齢・体力・関心・適性に応じて「いつでも、どこでも、いつまでも」スポーツを気軽に親しむことができるよう取り組むとともに、スポーツを「する」のみではなく、「観る」（観戦する）、「支える」（応援する・運営する）活動に参画でき、多様な関わりを通じて市民の誰もが心身ともに健康で暮らせるよう努めます。

（2）競技スポーツの推進

各種競技団体と連携を取りながら、優れた選手・指導者を活用し、競技力の向上に努めるほか、競技人口の増加を図ります。

(3) 「人財」(*)の育成

将来を担う貴重な「人財」を育成するため、スポーツ活動を通じ、心身の成長過程にある子ども達が、生涯にわたりたくましく生きるための健全な心と身体を培い、豊かな人間性を育む基礎を築くことができるよう努めます。また、スポーツ指導者やスポーツボランティアなど持続可能なスポーツ推進のための基盤づくりを担う、スポーツを支える「人財」の育成を図ります。

(*) 人財：「人」は「財産」という意味の造語です。地域を創り、未来を創るのは「人」の力です。人こそが地域の「財産」であり、市の「宝」であるとの考えのもと、本計画では「人財」という言葉を使っています。

(4) 地域社会の活性化と環境整備

スポーツによる、人と人との交流や地域との交流の促進、地域の一体感の醸成及び地域の活性化等多面的な役割を生かすため、地域の資源や特性を活用し、スポーツ推進のための環境づくりに取り組みます。

3 基本目標

週1回以上スポーツを行う割合

平成27年度30% ⇒ 平成37年度までに50%以上にする。

スポーツボランティア登録者数

平成27年度64人 ⇒ 平成37年度までに150人以上にする。

- ◆市民自らが、より一層自主的にスポーツに参加・参画するとともに、市民、地域、スポーツ関係団体等と行政が協働することによる、豊かなスポーツ活動の展開を図ります。
- ◆スポーツ活動を通して“ひと”と“まち”を、豊かで活力に満ちたものとなるよう努めます。
- ◆本計画の基本目標の実現に向け、各種取組を展開します。